

「共通コンポーネント基盤とサービス連携基盤開発のための技術調査」の 概要説明

1 背景

ISV、SI 事業者、ソフトウェアハウス等は、Linux 等のオープンソースデスクトップ環境をビジネス用途のアプリケーションやシステムを開発するためのプラットフォームとして選択することが少ない。その原因としては、以下の機能の実現が不十分となっていることが考えられる。

- (1) デスクトップアプリケーション間の連携機能
- (2) ネットワーク上のサービスとデスクトップアプリケーションの連携機能

(1)の機能については、オープンソースデスクトップ環境における規格やシステムが十分に整備されていないため、デスクトップ環境のアプリケーションを相互に連携することは不可能となっている。また、(2)については OSS においては実現されていない。

2 目的

本調査では、上記の問題を解決するために、以下のユースケースを満たす共通デスクトップ基盤を実現することを目的とする。

- (1) ワードプロセッサ、スプレッドシート、メール、スケジューラなどの一般的（抽象的）なコンポーネントを組み合わせてリッチな UI のアプリケーションを容易に開発可能にする。
- (2) サービス連携技術
各コンポーネントを組み合わせて、Web サービスをキックした結果を表示することができる。
複数の Web サービスを組み合わせて動作するシステム（証券取引システム、旅券発行システム等）をデスクトップアプリケーションとして作成することができる。
- (3) (1)と(2)の機能を Ruby や Python のようなスクリプト言語から利用して組み合わせることで、業務アプリケーションを簡単に作成可能にする。

3 本調査結果の概要

本プロジェクトの成果物は、既存技術の調査結果をまとめた「調査報告書」および、その調査結果を元に、上記目的で述べた内容を達成するための仕様をまとめた「技術仕様書」で構成される。

この技術仕様書では、各コンポーネント技術である DCOP 及び QtDBus(KDE)、ORBit2(GNOME)、XPCOM (Mozilla)、UNO (OpenOffice.org) をまたがって相互に利用できるシステム基盤を示し、これを仕様案としてまとめた。